



2026年はオリンピックイヤー！

今年の2/6～2/22まで、イタリアのミラノ・コルティナで冬期オリンピックが開催されます。

公式マスコットは、オコジョをモチーフにした「ミロ」と「ティナ」という名のきょうだいです。他にも仲間「フロー」という花をモチーフにしたサブキャラクターも登場します。特徴をまとめてみました。

ティナ(姉) オリンピックのマスコット 白の毛並み 開催地コルティナが由来 スピードと躍動の象徴
ミロ(弟) パラリンピックのマスコット 茶色の毛並み 開催地ミラノが由来 生れつき右後足がなく、歩くときは尻尾を使いこなす。多様性と創造性の象徴

フロー 白い花の帽子の小さな仲間達 スノードロップという花がモデル。希望や始まりの象徴

これらのマスコットはイタリアの小中学校の公募から誕生したそうで、表彰式やセレモニーで登場するのが楽しみです。新潟ゆかりの選手、フィギュアスケートの中井亜美選手、スノーボードハーフパイプ平野歩夢選手の活躍も期待して、冬のオリンピックを熱く楽しみましょう！



@Milan Cortina 2026 公式サイト

「Eco列車でいこう！」～第195回～ 2025年最後の旅は青森へ。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を紹介するコーナーです！)



12月19日(金)。リュックを担ぎ、家から4.5km先の新日本海フェリー新潟港ターミナルまで歩く。旅の始まりの高揚感は大好きなので徒歩は苦にならない。途中のスーパーでビールやおつまみを調達する。

22:30に新潟を出航し、まずは秋田を目指す。大部屋の2段ベット利用で運賃は6,400円。船内は無残なほどに空いている。フリースペースに陣取り、遅めの晩酌タイム。船上のひとときは、少し寂しいが、温かみを感じる。まばらな客の会話を聴いていると、トラックドライバーが多いようだ。彼らに取ってフェリー移動は日常なのだろう。広々とした浴場で汗を流し、ベットでぐっすり眠った。

早朝5:05秋田港着。最寄りの土崎駅まで約20分歩いて、2駅戻って秋田駅へ。ここで「五能線フリーパス」を購入し、旅を続ける。「東能代」から絶景路線「五能線」に乗り換え。町の中心「能代」で数人が下車し、2両編成のディーゼルカーの客は、いつしか2人だけになった。青空の下、日本海沿いをのんびりと列車は北上する。鱸作(へなし)、轟木(とどろき)、風合瀬(かそせ)など、難読な駅名標を見るのも楽しい。

11:39弘前着。この街はフレンチレストランが多く、その一軒を予約しておいた。名産のリンゴをふんだんに使ったミニコースを食す。シードルを使った鶏料理や、アップルパイもおいしかったが、特に「奇跡のリンゴ」と呼ばれている、無農薬りんごを使った冷製スープは、舌触りなめらかで絶品だった。

食後は、古色蒼然とした「中央弘前」駅から、2028年3月に廃止が決まっている「弘南鉄道・大鰐(おおわに)線」に乗車する。保線状況が悪く、車体はガタコト大きく揺れる。郊外に出ると、老木のりんご畑のそばを歩く。その雰囲気は1999年に廃止された新潟交通電車線(白山前～月潟間)に似ていた。

JR大鰐温泉駅から新青森駅へ特急移動。「津軽びいどろ」の工場直営店で、ハイボール用のグラスとサラダ用の皿を購入し、青森市中心部にあるホテルにチェックインした。

夜は、津軽三味線が聴ける居酒屋へ。大間マグロの刺身や、青森名物の貝焼味噌を食べながら、地酒を飲む。しっとりとした夜を期待していたが、「じゃんから節」から始まった三味線ライブは、途中から「ベンチャーズ」「情熱大陸」などノリノリの曲に変わり、その後は「ねぶたタイム」に。店のスタッフから法被を着せられて、「はねと」に変身。他のお客さんとともに「ラッセラー、ラッセラー」と飛び跳ねた。思っても見ない展開に満足はしたものの、店の外に出て雪はなく、気温は10℃以上の温かい夜。厳冬の青森を想像してきたので、肩透かしをくらったようだ。

最終日は観光列車「リゾートしらかみ」に乗車し、この日も五能線を満喫した。が、大雨で列車は90分も遅れ、車内に缶詰となった。予定していた「ハタハタ館」での温泉入浴が割愛となったのは残念だった。

秋田駅併設のスーパーで、きりたんぼや稲庭うどんなど、お土産をたくさん買い込んで、特急「いなほ14号」に乗車。車内で地酒とお寿司を楽しみ、20:23、新潟に到着した。

楽しい旅だったが、「風雪ながれ旅」の世界を肌で味わうことはできなかった。次回のお楽しみにしたいと思う。

